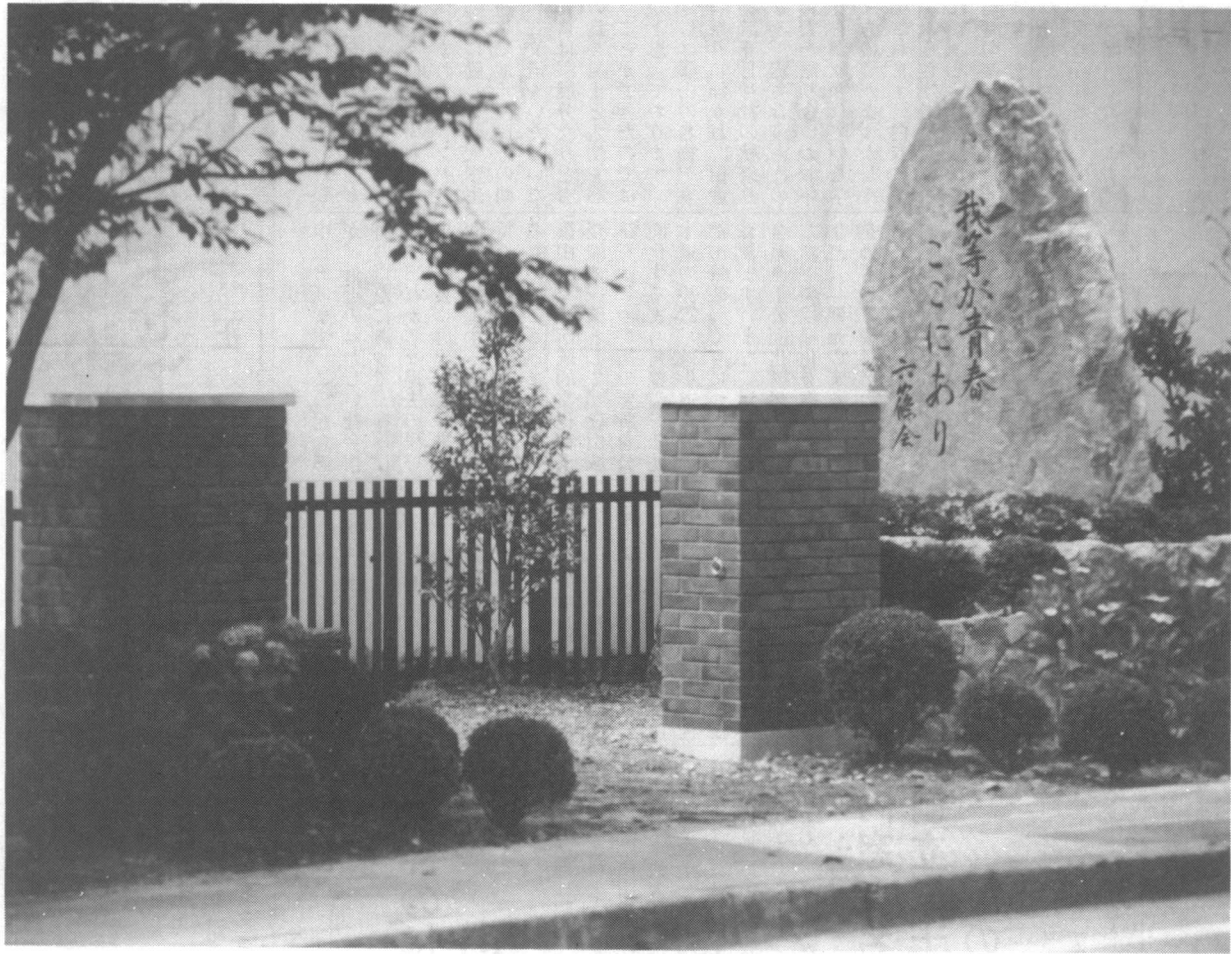


六篠会報

第 5 号

発行 神戸市灘区六甲台町一
神戸大学農学部内
六篠会
(神戸大学農学部同窓会)
印刷 日本住所調査センター

発祥の地記念碑の除幕式は来春5月19日(土)に



▲ 7月12日に竣工した発祥の地記念碑



会長 西川 欣一

農学部創立三十五周年へ向けてのお願い

卒業生の皆様方には、ま
ず常日頃から六篠会に対し
て賜っています御厚情に対
し厚く御礼申し上げます。
さて、昭和五十九年に兵
庫農大と神大農学部の同窓
会を一本化した六篠会が発
足し、昭和五十四年に母校

創立三十周年記念行事を無
事に実施できて、六篠会の
基礎が固まったばかりと思っ
ている間もなく、「光陰矢の
如し」とはよく云ったもの
で、昭和五十九年五月の三
十五周年がはや目前にせま
つて参りました。

六篠会としては只今、
記念事業実行委員会を結成
し、準備を進めています。
ここに計画の概要をのべ
皆様の御協力をお願い申し
上げます。

一、月日 昭和五十九年
五月十九日(土)
二、場所 母校発祥の地、
兵庫県多紀郡篠山町

三、記念行事
発祥の地記念碑の除幕
式及び祝賀会
四、記念事業
1 記念碑建立
2 記念六篠会員名簿の
発行
3 記念品(立杭焼、絵
葉書)の製作
五、各支部会、クラス会の
開催

「我等が青春ここにあり、
六篠会」と刻まれた農学部
発祥の地・記念碑が多紀郡
篠山町郡家に六篠会によつ
て建立され、その竣工式が
昭和58年7月12日、神戸大
学長、神戸大学事務局長、
兵庫農総務部長、同管財課
長、同丹波県民局長、同
多紀福祉事務所長、篠山町
長ほか多数のご来賓の出席
を得てとり行われました。

「我等が青春ここにあり、
六篠会」と刻まれた農学部
発祥の地・記念碑が多紀郡
篠山町郡家に六篠会によつ
て建立され、その竣工式が
昭和58年7月12日、神戸大
学長、神戸大学事務局長、
兵庫農総務部長、同管財課
長、同丹波県民局長、同
多紀福祉事務所長、篠山町
長ほか多数のご来賓の出席
を得てとり行われました。



六篠会の皆様へ

「永世の祈りをこめた六
篠の、発祥の碑いま篠山に
建つ」
開学35年目を来年にひか
え、三六九七名に及ぶ多数
の卒業生の皆様、実に幅
広い分野において益々のご
活躍のこと、見、聞き、知
るにつけ、洋々たるわが農
学部の将来を示しているよ
うで、誠に喜びにたえませ
ん。

昭和24年、農学科の一等
科のみで開学した兵庫農科
大学が、今や5学科29講座、
附属農場、大学院農学研究
科(修士課程、5専攻)を
もち、更に神戸大学大学院
自然科学研究科(博士課程
にも参加する農学部)にまで
発展し、いよいよ、来年3
月、農学部の参加分野で、
初めて博士が誕生する予
定になっています。こし
ばらには内的な充実と、研
究成果の発揮に向つての努
力がなされる段階と心得ま
す。関係各位のご苦勞、ご
努力に感謝と敬意を表し
つ、私達一同、責務を感じ

ております。これらの歩み
については六篠会報第1・
2・3・4の各号にのせら
れていますので再読をお願
いすることにして、次に、
最近の農学部に関連する行
事などを申し上げます。
報告を申し上げます。
「我等が青春ここにあり、
六篠会」と刻まれた農学部
発祥の地・記念碑が多紀郡
篠山町郡家に六篠会によつ
て建立され、その竣工式が
昭和58年7月12日、神戸大
学長、神戸大学事務局長、
兵庫農総務部長、同管財課
長、同丹波県民局長、同
多紀福祉事務所長、篠山町
長ほか多数のご来賓の出席
を得てとり行われました。

「我等が青春ここにあり、
六篠会」と刻まれた農学部
発祥の地・記念碑が多紀郡
篠山町郡家に六篠会によつ
て建立され、その竣工式が
昭和58年7月12日、神戸大
学長、神戸大学事務局長、
兵庫農総務部長、同管財課
長、同丹波県民局長、同
多紀福祉事務所長、篠山町
長ほか多数のご来賓の出席
を得てとり行われました。

「我等が青春ここにあり、
六篠会」と刻まれた農学部
発祥の地・記念碑が多紀郡
篠山町郡家に六篠会によつ
て建立され、その竣工式が
昭和58年7月12日、神戸大
学長、神戸大学事務局長、
兵庫農総務部長、同管財課
長、同丹波県民局長、同
多紀福祉事務所長、篠山町
長ほか多数のご来賓の出席
を得てとり行われました。

「我等が青春ここにあり、
六篠会」と刻まれた農学部
発祥の地・記念碑が多紀郡
篠山町郡家に六篠会によつ
て建立され、その竣工式が
昭和58年7月12日、神戸大
学長、神戸大学事務局長、
兵庫農総務部長、同管財課
長、同丹波県民局長、同
多紀福祉事務所長、篠山町
長ほか多数のご来賓の出席
を得てとり行われました。

「我等が青春ここにあり、
六篠会」と刻まれた農学部
発祥の地・記念碑が多紀郡
篠山町郡家に六篠会によつ
て建立され、その竣工式が
昭和58年7月12日、神戸大
学長、神戸大学事務局長、
兵庫農総務部長、同管財課
長、同丹波県民局長、同
多紀福祉事務所長、篠山町
長ほか多数のご来賓の出席
を得てとり行われました。

「我等が青春ここにあり、
六篠会」と刻まれた農学部
発祥の地・記念碑が多紀郡
篠山町郡家に六篠会によつ
て建立され、その竣工式が
昭和58年7月12日、神戸大
学長、神戸大学事務局長、
兵庫農総務部長、同管財課
長、同丹波県民局長、同
多紀福祉事務所長、篠山町
長ほか多数のご来賓の出席
を得てとり行われました。

「我等が青春ここにあり、
六篠会」と刻まれた農学部
発祥の地・記念碑が多紀郡
篠山町郡家に六篠会によつ
て建立され、その竣工式が
昭和58年7月12日、神戸大
学長、神戸大学事務局長、
兵庫農総務部長、同管財課
長、同丹波県民局長、同
多紀福祉事務所長、篠山町
長ほか多数のご来賓の出席
を得てとり行われました。

「我等が青春ここにあり、
六篠会」と刻まれた農学部
発祥の地・記念碑が多紀郡
篠山町郡家に六篠会によつ
て建立され、その竣工式が
昭和58年7月12日、神戸大
学長、神戸大学事務局長、
兵庫農総務部長、同管財課
長、同丹波県民局長、同
多紀福祉事務所長、篠山町
長ほか多数のご来賓の出席
を得てとり行われました。

我等が青春ここにあり

篠山町長 藤井正三

この度六篠会の皆さんが、兵庫農科大学創立35周年記念事業の一環として、大学発祥の地篠山に建立された記念碑「我等が青春ここにあり」によって地元篠山町長としてお祝いかたがたごあいさつを申し上げます。

わが、丹波篠山は、昭和24年に兵庫県立農科大学を誘致し歩兵第七十連隊の軍都から、教育の町に衣替えをいたしました。

孟岳を背に旧兵舎を利用して開校された兵庫農科大学は、いまだ敗戦の混乱が残る世相のなかで、関係各位の非常なご努力のもとに着々とその内容が充実され、数多くの農学者、農業技術者を世に送り出し、農業全般の進歩発展に貢献されたのであります。なおまた、当大学は、丹波地域における文教の中心として、また、地域産業の振興に計り知れない効用を果してきたと思えます。デカシヨ節発祥の地としての全国的によく知られておられるおかげには、大学がある。このことは、わが郷土の誇りでもありま

しかし時代の変遷はいかんともしがたく、当大学は昭和42年に篠山の地を離れ神戸の六甲台に国立移管の止むなきにいたりました。その当時、兵庫農科大学が神戸の六甲台に国立移管決定の報は、当大学をこよなく愛し、心の支えにしてきた地元住民にとって断腸の思いであったと回想するものであります。創設後16有余年の長い短い期間ではございましたが、その間大学の先生方には、いろいろとご指導賜ることができましたし、毎年桜の花が咲く時期には、多くの新しい大学生を篠山の地に迎えられることができました。

四季折々に色なす豊かな自然に包まれたキャンパスで、勉強に勤しまれ大学生活を通じて地元住民との間に深いご交流をいただいた皆さんは、幾分なりとも篠山の良き風土と人情を感じ願うことができたのではないかと思っております。

ときには篠山の名物アカシヨ祭りや浮かれ、田舎の風物詩春日神社の秋祭りを楽しみ、赤ちやうちんの店で青春を語り合いおおいに青春を謳歌されていた学生さん方の姿がなつかしく思い出されます。白衣にタオルをぶらさげて自転車通学されていた学生さんの姿は、当時の楽しい思い出であります。またなには、篠山の美女を生生涯の伴侶として射止められた方も少なくないと思っております。まさに「我等が青春ここにあり」でございます。

兵庫農科大学が篠山の地を去って早や16年、大学の跡地は、良きにつけ、悪きにつけ大きく変貌いたしました。大学校舎の敷地は会社用地となり、農場跡には県の総合スポーツセンターと総合庁舎が建設されて大学の面影はなくなりつつあります。当時を忍ぶ方々には淋しく感じられていたのではないかと存じておりましたところ、幸いにも六篠会の記念事業として、元兵庫農科大学の正門前に立派な記念碑を建立いただきました。このことは、当大学縁の皆さんにとっても、また地元住民にとっても、誠に意義深い事業であると思えます。心からお礼を



▲竣工式風景 (昭和58年7月12日)

してまいります。

今回建立された記念碑が県総合庁舎の一角に小公園的に美しく整備され、環境美化の一助を担っておりますこと、町行政の推進上好ましいことであるとよろこんでいる次第でございます。どうか六篠会の皆さんには、今回の事業を契機として青春のふるさと丹波篠山を思い出し、ときには、篠山の地を訪れていただきますよう心からお待ちをいたしております。篠山にお向って躍進する糧として貴重な存在となるよう願うものでございます。現在篠山町では伝統的文化都市整備の一環として、篠山城跡をはじめ、街の要所を公園化するまち角整備、松並木道の設置、遊歩道などの都市景観づくりにつとめております。また、兵庫県の全県全土公園化構想に呼応して、環境緑化を推進するなど、「観光のまち篠山」をめざして鋭意努力をいた

創立三十五周年記念事業紹介

我等が母校、神戸大学農学部は来年で創立三十五周年を迎えます。これを記念し、昭和五十九年五月十九日に創立記念の行事が種々とり行われます。

記念行事としては、母校発祥の地記念碑の建立、同窓会名簿の発行、記念碑除幕式、及び祝賀会、祝賀用の記念品(立杭焼酒器セット)の製作、及び祝賀支部総会並びにクラス会の開催、そしてこの六篠会報特集号の発行等が企画されております。六篠会々員各位の御協力を切望する次第です。

発祥の地記念碑の建立について

神大農学部は昭和二十四年、兵庫農科大学として現影が日毎に失われつつある在の兵庫農大篠山総合庁舎北側の旧陸軍兵舎を校舎として創立。四十一年に国立移管、キャンパスも四十二年に現在の神戸市灘区六甲台町に移りました。

地は大きく変貌し、その面影が日毎に失われつつある状況に鑑み、母校創立三十五周年を記念して、記念碑を建立し大学発祥の地としての歴史を残すこととしました。碑文は、役員会で検討し、「我等が青春ここにあり」と決められました。

同窓会名簿の発行について

今回の名簿発行も、来年五月に予定されている数々の記念事業の一貫として計画されたもので、山本博昭氏と上垣豊氏によって編集されます。

同窓会活動の根源は、正確な会員名簿の完成にあり、かつても過言ではありません。会員各位の御協力と名簿の購入を是非お願い致します。

『発祥の地記念碑』の製作について

先に創立三十周年を記念してつくられた「農学部の四季」と題する八枚組の絵はがきの追加分として、発祥の地記念碑の絵はがきが

『立杭焼酒器セット』の製作について

昭和五十九年五月十九日に発祥の地記念碑除幕式に

記念碑除幕式典と記念祝賀会について

創立三十五周年記念行事のメインイベントとして、農学部三十五年の歴史をふりかえると共に農学部のますますの発展を祈って、昭和五十九年五月十九日(日)、農科大学時代の卒業生にとつては青春の地、それにつづく神戸大学農学部の卒業生にとつてもふる里である

篠山農大跡で、発祥の地記念碑の除幕式(東順三氏、岡沢秀晃氏担当)を挙行します。

更に引き続き総合スポーツセンター(予定)で、久下平氏、久保一兵氏、酒井進氏らの担当で祝賀会が開催されます。六篠会々員多数の御参加を切望します。

記念支部総会とクラス会の開催について

除幕式典及び祝賀会で、せっかく篠山に集まる機会に、是非とも各クラス会、OB会をもつていただきたいと思っております。幸い県六篠会が当日、篠山丹波荘(予定)で、昭和五十九年度の県六篠会総会を開催される計画を進めておられますが、各学科、各学年、又はクラスOB会や恩師を囲む研究室の会等を企画して下さい。

連絡や事務はそれぞれの会

で別途幹事をつくって独自にお願いしますが、六篠会幹事長新家龍氏(農学部醸造生産学)に連絡して下さい。創立三十五周年記念事業実行委員会の組織は別記のとおりです。

会員各位の御支援、御協力を重ねてお願い申し上げます。(総務渉外係)



記念碑はこの門の道路を隔てた向い側に建立された。

六篠会35周年記念事業実行委員会組織と役員

- | | | |
|-----------|-----------------|------------------|
| 総務 | 渉外 | 西川 欣一・新家 龍・中田 昌伸 |
| 記念碑除幕式典 | 東 順三・岡沢 秀晃 | |
| 記念品製作 | 山口 禎 | |
| 絵はがき | 前川 進・中田 昌伸 | |
| 立杭焼 | 石田 陽博・杉原 一三 | |
| 記念六篠会名簿 | 山本 博昭・上垣 豊 | |
| 会報35周年特集号 | 岸原 士郎・新家 龍 | |
| 記念事業特別会計 | 内藤 親彦・(江口庸平) | |
| 記念祝賀会 | 久下 平・久保 一兵・酒井 進 | |
| 県六篠会開催 | 田中 平義・北浦 義久 | |
| クラス会・OB会 | 新家 龍・(江口庸平) | |
- ()内は役員補助者

- ◆名簿調査ハガキのご返事は必ず……
少しでも充実した名簿を発行するための作業を懸命に進めていますが、会員の皆様方全員のご協力がどうしても必要です。つきましては、先般送付させて頂きました調査ハガキの返事未了の方は、必ずご返事下さるようお願いいたします。
- ◆新企画として『企業別索引』の掲載!
名簿の内容充実にとって、皆様方からご要望の多かった『企業別索引』を掲載します。ご期待下さい!

ささ山の思い出

元昆虫学教授 奥谷 禎一

篠山の兵庫農大へ赴任したのは、昭和二十六年十一月のことであった。戦後の学制改革によって、大学が現制度になり新制大学と云われた。当時の農大には岩田久二雄先生、森為三先生がおられ、私は岩田先生の助教教授というものであった。岩田先生とはその著書を通じて、文通したこともあり、森先生は、私が中学時代から、朝鮮の昆虫には必ず出てくる大先生であった。新制大学発足と共に、何度か勧誘を受けたが、私事のため難京することができずにいたが、何とか好転しそうなと、大先生御二人がおられることで決心したものである。

当時はやと戦後の混乱が着着きはじめた頃ではあるが、東京から篠山までの道程は遠く、今日では想像もできない不便さであった。まず、デカンショ節で名高い所だからと思いつく符を求めに行つて、国鉄の窓口で「篠山」がなかなかわからず、シノ山とかいてある所といてやとわかつてもうらえ、これだけで、ずいぶん田舎だと思われた。篠山口駅には岩田・永富両先生の出迎えをうけ、非常に心強く思ったが、私がボンヤリしていたため、連絡パスが出てしまい、ハイヤーもなく次のバスまで寒い駅舎で待たされてしまった。篠山へ着くなりこんな人々をやつてしまった主人に、東京以外全く知らない家内はあきれたことであろう。私は大学以外ほとんど閉居して来たので、言葉に困ることは少なかったが、大変だったことと、一番困る言葉は今でも「が関東であるが「かつて」が関東

では「買って」の意であるが関西では「借りて」の意となることである。その上、給料は安い上に、月一回に分けて出る仕方で、私生活のみでは想像もつかない状態であった。研究面も私生活に劣らずきびしいものであった。予算は県の財政事情によって、はげしく変動するので、消耗的経費と図書費でほとんど消えてしまい、経費のほとんどは研究はほとんど望めない時代であった。幸にして昆虫を相手にしていれば、最低の経費でもかなりの研究ができるので、専らこのような方向、観察とアイデアで行える方向を全員で目指した。私はかねてから、ハチの仲間、最も原始的といわれるハバチ・キバチの一群に興味があったので、岩田先生のおすすもであり、彼らの生活と幼虫による分類学的研究を志した。岩田先生の案内で、篠山盆地を自転車でかき廻ると、ハバチ幼虫の飼育がほとんど毎日の仕事であった。昆虫の飼育は素人の思っているほど簡単なものではなく、特にハバチは弱く、ずいぶん失敗したものである。篠山附近のものが大体見当がついてきてからは、県内では氷ノ山や扇ノ山に、あるいは長野県の高地に遠征したりして約五〇〇種飼育し、三〇〇種ほどが判明し、ガムシヤラにとりまじめ、「広腰垂目の幼虫期による分類学的研究」としてまとめることができた。この頃は、ほとんど旅費が計上されておらず、期末手当をほとんど旅費に充当せざるを得ない苦しい時代であった。研究上の新発見というか、

外国の文献からも想像もなかった新事実を知ったのは忘れもしない、東浜谷の春日神社の境内である。ハバチ類は知られていない限りその食草の組織中に産卵するのであるが、幼虫がニワトコから得られていたツマジロクロハバチは、どんな方法をとつても食草であるニワトコに産卵しない。雨あがりのある日、飼育中の幼虫の食草をとり、春日神社へ行つた。その時、ニワトコの葉上に明らかに産卵にきているツマジロクロハバチの卵を発見した。その卵の表面をたきながら、葉の表面をたきながら、いかにも産卵場所を探している様子であった。五分ほど観察していたら、ヨツバムグラの葉に尾端をこすりつける動作を、一、二の葉片に行なつて、再びニワトコに戻つてきた。このような動作を反復行つたので、何かと思ひヨツバムグラの葉をさらべると、卵が発見された。それでも、この卵がツマジロクロハバチの卵である確信はもてず、卵を研究室に持ち帰り、飼育することにした。ふ化してきた幼虫はいくらヨツバムグラを与えても食はず、ニワトコを与えると盛に食べた。もうほとんどツマジロクロハバチの幼虫にちがいないと思われたが、老熟するまで飼育した。幼虫は大きくなるにつれて、見覚えのあるツマジロクロハバチの幼虫となり、はじめて、ハバチ類で食草に産卵せず、附近の適当な植物組織に産卵するものがあることを知つた。大いに興奮したものである。その後、ハバチの研究を卒論にした学生によって、数種のものにこのような習性のあることが明らかになったが、篠山のような野外観察のしやすい条件が、この大発見をもたらしたものと懐かしみ思っている。この事実は、その後大英博物館にいたハバチの大家ベン

篠山雑感

農学33年卒 北浦 義久

ソノ氏に、直接お話しする機会にめぐまれ、下手な英語であつたが、非常なおどろきで目を丸くして聞いていた。この時あたりから、学生や後輩に、実験も大切であるが観察力の養成に努めるよう常にお話している。篠山の思い出がとんでもない方向に発展してしまつたが、この一文が、同窓の皆様に何らかの思い出の一助となれば幸である。

今年の五月下旬、久し振りに篠山を訪れる。新緑に包まれた福知山線篠山口駅で下車、農大時代何度も踏みしめたプラットフォームから改札口を出て見ると、駅周辺のたゞすまいは、二十五年前とほとんど変わらない。迎える車で農大農場跡に建てられた県の総合庁舎内にある福祉事務所に向けて走る。車窓に映る水田や、多紀

津軽から盛岡の三年半は農業試験場での研究、今、りんごの王者として君臨している「ふじ」は丁度赴任した年の春の園芸学会で優良系統として発表され、その後、市場性等の調査研究がすすめられ、新しい品種として登録され全国に広く栽培されたものである。三年半の東北生活に別れをつけ、故郷に帰つて県庁に入り、果樹の奨励業務に八年半。播州のみかんや但馬のなし、播州のおどう等に新しい産地づくりに取り組む。最も楽しい時期であつた。その後東京事務所で、中央官庁や国会議員との連絡調整を担当し、再び神戸に帰り、農政企画から、秘書、財政等、農業から離れ、今年四月から高令者の福祉対策という全く新しい分野を担当、まさに激動の二十五年間であつた。

昭和三十年、何んとなく試験を受け、何んとなく合格した兵庫農科大学の四年間は、私の人生にとって決定的なものとなり、その後生きた道を方向付けるものとなった。福知山線塚家より当時はS.Lで篠山まで、生瀬、武田尾、道場、三田と、トネルのたびに、窓を開け閉め、一時間四十五分かけやと着き、そこからバスで二十分、なんとここが山ざの故里、同じ兵庫庫にこの様な処があるとは。入学試験の日、答案もそこそこ、途中一番に退室、帰る汽車の時刻が最優先、同じ事を、そう一人の男がやっていた。広島から来た勝川君(芸備木材社長、それでも二日間の試験を無事終へ、これで篠山へは来ることもないだろうと、そこへ入学通知が来た。まあ一度行つてみるか。学生寮に入るべく手続きをし、部屋に案内されたら福岡出身の石田君(カコヤ家具)と同居、階段の下を、天井から砂が落ちて来る。その日の内に、下宿を探すことにした。

わが青春の篠山

農化34年卒 富士大高司

町へ出てみて驚いた。人目が少ないのに周囲から下宿を飛ばせんと、広瀬文具に飛び込んだ。医進の杉山君(愛染橋病院院長)と同じ家に紹介され、二月月暮り着いた。以来卒業までに六軒変わった。次に食の確保。町行く先輩より大手食堂を教えられる。絶えず学生に警戒心を持った親父、無愛想な細君、息子がいちゃん、まずここを食の処点とする。当時、農、化、畜は大手食堂、医とちよつと真面目人間は二階町の二葉食堂、魚屋町の角源と相場が決まっていた。一日も早く町に溶け込む為、夕方よりアルバイトをして夜になるとアラつく。ところが二十時になると町は真暗まるで戦時中の様、しかも呑み屋はやっていない。乾新町の誓願寺横に出る屋台ではブドウ酒割り焼酎がコップ一杯三十円、これはよく呑んだ。そして行きつけ所は篠山を越えて橋向こう、自転車ガズラリと並び、ここだけは別天地であった。学校へは汽車通を除いて

ほとんど自転車通学であった。そこで都家の自転車屋山内新開店の娘さん、呉服町大西文具の娘さん、立町の娘さん、宝塚より衣裳を借り本気で練習をした。が難かしくて審査員に理解されず入選しなかった。又秋の兵庫県インカレに向けラグビーも随分と練習をした。しかも硬式テニス部が無かつた為、清水先生と相談し同好会をつくり、ラグビーとテニスの二股で参加した事もある。三年生の冬、篠山で初めて町民も参加するダンスパーティーを開いた。甲南大学と関学からバンドを呼び集まりダンスを楽した。以来町の人と学生とは、今まで以上に一体となった感じがした。後に卒業生と町の娘さんの結婚が盛んになったのは、このパーティーが切っ掛けであつたように思う。

四年生になると卒業論文の問題があつた。主に清水先生、酒井先生、児島先生に助けをもらつて、夏休み中に仕上げ、残り半年は最後の学生生活と思ひ大いに楽しんだ。あまり詳しく書けないが、ニワトリパーティー、警察前のポストタワー、院の屋根瓦横向け事件等々、大学及び町の人達に迷惑をかけたが、今となっては楽しい思い出ばかりである。卒業後一年は篠山を訪問していたが、大学が六甲台へ移つてから訪篠する機会が少なくなった。けれど我々七回生は二、三年に一度同窓会を開いて又五十五年には篠山近辺で開いた。又、化学工学教室では清水先生を囲む会を一年一回、開いている。これからも兵庫農科大学の四年間、篠山での生活等を基盤にしながら卒業生の一人として、自信をもって生きて行きたい。



近く取り壊すと伝えられている旧兵庫農科大学農学一号館

部として発展、神戸六甲台

母校の「これからの領域」

副会長 東 順 三

わが農学部も、近く創立35周年を迎える。神戸大学農学部の発祥地に建立を進めていた記念碑が完成し、その竣工式に出席するため、久しぶりで篠山を訪れた。その折、この旧舎も近く取り壊してしまおうという噂を耳にしなが、回顧的なひとときを過ぎた。

昭和24年頃の戦後の疲弊した時代では、とりあえず食糧を増産することによって、国の再興をはかることが緊急課題とされ、その方針のもとに、兵庫県にも是非必要と、農科大学が設置されたのである。

その後、わが国の食糧の生産は比較的順調に伸びた。ところが、国際的な経済状況は激変し、わが国が政策としてとった所謂「高度経済成長期」に至ると、工業主導型の産業拡大政策が押し進められた。その結果、経済大国になり得たが、その「付け」として、人類の生存をも脅かす公害問題が持たされたことは周知の事実である。

この「高度経済成長期」を境として、わが国の穀物自給率は低下傾向をたどり、食糧の大部分を輸入に頼っている現状である。海外からの輸入が難しくなると、時の対策は無にひとしい有様で、多くの警鐘がならされ、置かれた状態に近い。

また、臨時行政調査会などでは、「①国際的に日本の農業が弱体 ②農学部の卒業生が農業界に貢献する割合が低い ③農学部の不人気」などを理由として、農学部の「縮小再編成」を迫る雰囲気があるに聞いている。

確かに、これからの農学部は単に一次産業としての農業の振興を重点的な目標とするのではなく、遺伝子操

は社会に還元すべきであると強調されている。その一環として、「食生活の科学」をテーマとして、わが農学部でも、公開講座が盛会裡に開催された。さる7月18日から22日の5日間にわたって、本会報の一面で農学部長が述べているように、講義が、おなじみの先生方によって行われた。

庶務報告

関係者の事後の感想文を引用すると「農業という一次産業のみでなく、食品や環境問題など、一般市民生活の中にも農学部の研究や教育が関与していることを認識してもらえたのは、大きな収穫であった」として、農学部の内容は社会には未知であるらしい。

お茶席に重宝されます。丈夫な木で御座いますか。世話は少しも必要なく育ち易い木で御座います。あまりましたら総合庁舎のお庭にでも御植え頂けましたらと念じておりますが。

▼「発祥の地記念碑」完成
兵庫農科大学発祥の地記念碑は兵庫農科大学総合庁舎の一角(旧兵庫農科大学農場跡地)に建設され、七月十二日に学内外から来賓を迎えて、竣工式が行われた。



▲ 新築なった自然科学研究科 (大学院博士課程)

▼「発祥の地記念碑」完成
兵庫農科大学発祥の地記念碑は兵庫農科大学総合庁舎の一角(旧兵庫農科大学農場跡地)に建設され、七月十二日に学内外から来賓を迎えて、竣工式が行われた。

竣工式当日、誰とも知らず「蠟梅」の苗木が記念碑の傍に置かれ、次のような一文が添えられ、参会者の心を打たれました。

「此の度の御建碑、まことにめでとございませう。お祝いに「蠟梅」を進上させて頂きます。

実生から育てましたので、只今は小さく御座いますが、数年後には花をつけ始め、一間あまりまで成長致します。年末から新年へかけて、とも香り高い花が咲き、開かれていて、その利益

岡田総一先生(元兵庫農大教育学教授)は昭和五十八年八月十二日肺腫瘍のため逝去され、明石市上の丸一丁目の上の九教会で葬儀が行われました。享年八十二歳でした。

ここに謹んで両先生の御冥福をお祈りいたします。

Dr. H. Dallweg
Dr. H. D. Mooreland

▼「発祥の地記念碑」完成
兵庫農科大学発祥の地記念碑は兵庫農科大学総合庁舎の一角(旧兵庫農科大学農場跡地)に建設され、七月十二日に学内外から来賓を迎えて、竣工式が行われた。

竣工式当日、誰とも知らず「蠟梅」の苗木が記念碑の傍に置かれ、次のような一文が添えられ、参会者の心を打たれました。

「此の度の御建碑、まことにめでとございませう。お祝いに「蠟梅」を進上させて頂きます。

実生から育てましたので、只今は小さく御座いますが、数年後には花をつけ始め、一間あまりまで成長致します。年末から新年へかけて、とも香り高い花が咲き、開かれていて、その利益

関係者の事後の感想文を引用すると「農業という一次産業のみでなく、食品や環境問題など、一般市民生活の中にも農学部の研究や教育が関与していることを認識してもらえたのは、大きな収穫であった」として、農学部の内容は社会には未知であるらしい。

お茶席に重宝されます。丈夫な木で御座いますか。世話は少しも必要なく育ち易い木で御座います。あまりましたら総合庁舎のお庭にでも御植え頂けましたらと念じておりますが。

▼「発祥の地記念碑」完成
兵庫農科大学発祥の地記念碑は兵庫農科大学総合庁舎の一角(旧兵庫農科大学農場跡地)に建設され、七月十二日に学内外から来賓を迎えて、竣工式が行われた。

竣工式当日、誰とも知らず「蠟梅」の苗木が記念碑の傍に置かれ、次のような一文が添えられ、参会者の心を打たれました。

「此の度の御建碑、まことにめでとございませう。お祝いに「蠟梅」を進上させて頂きます。

実生から育てましたので、只今は小さく御座いますが、数年後には花をつけ始め、一間あまりまで成長致します。年末から新年へかけて、とも香り高い花が咲き、開かれていて、その利益

▼「発祥の地記念碑」完成
兵庫農科大学発祥の地記念碑は兵庫農科大学総合庁舎の一角(旧兵庫農科大学農場跡地)に建設され、七月十二日に学内外から来賓を迎えて、竣工式が行われた。

竣工式当日、誰とも知らず「蠟梅」の苗木が記念碑の傍に置かれ、次のような一文が添えられ、参会者の心を打たれました。

「此の度の御建碑、まことにめでとございませう。お祝いに「蠟梅」を進上させて頂きます。

実生から育てましたので、只今は小さく御座いますが、数年後には花をつけ始め、一間あまりまで成長致します。年末から新年へかけて、とも香り高い花が咲き、開かれていて、その利益

関係者の事後の感想文を引用すると「農業という一次産業のみでなく、食品や環境問題など、一般市民生活の中にも農学部の研究や教育が関与していることを認識してもらえたのは、大きな収穫であった」として、農学部の内容は社会には未知であるらしい。

お茶席に重宝されます。丈夫な木で御座いますか。世話は少しも必要なく育ち易い木で御座います。あまりましたら総合庁舎のお庭にでも御植え頂けましたらと念じておりますが。

▼「発祥の地記念碑」完成
兵庫農科大学発祥の地記念碑は兵庫農科大学総合庁舎の一角(旧兵庫農科大学農場跡地)に建設され、七月十二日に学内外から来賓を迎えて、竣工式が行われた。

竣工式当日、誰とも知らず「蠟梅」の苗木が記念碑の傍に置かれ、次のような一文が添えられ、参会者の心を打たれました。

「此の度の御建碑、まことにめでとございませう。お祝いに「蠟梅」を進上させて頂きます。

実生から育てましたので、只今は小さく御座いますが、数年後には花をつけ始め、一間あまりまで成長致します。年末から新年へかけて、とも香り高い花が咲き、開かれていて、その利益

関係者の事後の感想文を引用すると「農業という一次産業のみでなく、食品や環境問題など、一般市民生活の中にも農学部の研究や教育が関与していることを認識してもらえたのは、大きな収穫であった」として、農学部の内容は社会には未知であるらしい。

お茶席に重宝されます。丈夫な木で御座いますか。世話は少しも必要なく育ち易い木で御座います。あまりましたら総合庁舎のお庭にでも御植え頂けましたらと念じておりますが。

▼「発祥の地記念碑」完成
兵庫農科大学発祥の地記念碑は兵庫農科大学総合庁舎の一角(旧兵庫農科大学農場跡地)に建設され、七月十二日に学内外から来賓を迎えて、竣工式が行われた。

竣工式当日、誰とも知らず「蠟梅」の苗木が記念碑の傍に置かれ、次のような一文が添えられ、参会者の心を打たれました。

「此の度の御建碑、まことにめでとございませう。お祝いに「蠟梅」を進上させて頂きます。

実生から育てましたので、只今は小さく御座いますが、数年後には花をつけ始め、一間あまりまで成長致します。年末から新年へかけて、とも香り高い花が咲き、開かれていて、その利益

会長	西川 欣一 (A1)
副会長	東 順三 (C1)
幹事	長谷川 平義 (C1)
幹事	中野 昌龍 (C1)
幹事	田中 昌龍 (C5)
幹事	中野 昌龍 (C10)
幹事	親土 親土 (A13)
幹事	博昭 博昭 (C10)
幹事	博昭 博昭 (A12)
幹事	豊 豊 (C16)
幹事	北浦 義豊 (A6)
幹事	岡田 秀晃 (Z11)
幹事	久保 武司 (K1)
幹事	石田 一兵 (C2)
幹事	能宗 陽博 (A2)
幹事	前川 康夫 (C2)
幹事	藤井 進 (A3)
幹事	藤井 進 (C5)
幹事	浦岡 雄三 (Z6)
幹事	浦岡 雄三 (A7)
幹事	酒井 進 (C7)
幹事	酒井 進 (Z12)
幹事	脇内 成昭 (C15)
幹事	寺井 弘文 (A神2)
幹事	山木 和人 (A神4)
幹事	山木 和人 (A神6)
幹事	尾修 欣一 (A1)
幹事	酒井 龍進 (C5)
幹事	酒井 龍進 (C7)

前年度繰越金	6,294,993	6,294,993
一般会計より繰入れ	3,000,000	3,000,000
寄附金	1,000	0
預金利息	200,000	344,591
合計	9,495,993	9,639,584

昭和三十八年度六篠会学術振興基金決算報告書

前年度繰越金	5,523,472	5,523,472
一般会計より繰入れ	300,000	500,000
記念出版特別会計より繰入れ	50,000	53,614
預金利息	180,000	217,907
合計	6,053,472	6,294,993

前年度繰越金	855,298	855,298
一般会計より繰入れ	4,050,000	4,175,000
預金利息	20,000	25,952
雑収	2,000	38,295
合計	4,927,298	5,094,545

昭和56年度六篠会学術振興基金決算報告書

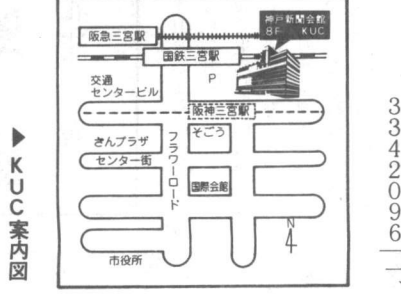
前年度繰越金	942,332	942,332
一般会計より繰入れ	1,100,000	1,125,000
預金利息	15,000	54,876
雑収	2,000	200,000
合計	2,059,332	2,322,208

前年度繰越金	942,332	942,332
一般会計より繰入れ	1,100,000	1,125,000
預金利息	15,000	54,876
雑収	2,000	200,000
合計	2,059,332	2,322,208

監査の結果誤りなきことを認める
昭和三十八年4月15日 浦岡 睦(印) 切貫武代司(印)

編集後記

今回は創立35周年へ向けて、記念事業の紹介、旧学舎のあった篠山の思い出を中心に、現在の農学部の様子も一部に含めて、編集いたしました。お忙しい中を御多幸をお祈り申し上げます。



今回は創立35周年へ向けて、記念事業の紹介、旧学舎のあった篠山の思い出を中心に、現在の農学部の様子も一部に含めて、編集いたしました。お忙しい中を御多幸をお祈り申し上げます。